

2018年(平成30年)

第131号

(11月1日)

**平安月報**  
The HEIAN monthly report

発行所：立正佼成会 京都教会  
 発行責任者：渉外部長 田中規之  
 編集委員長：渉外広報 植田恭司  
 〒605-0041 京都市東山区三条東町 230  
 TEL (075)762-2211 FAX (075)762-2266

## 第15回奈良県宗教者フォーラム ～日本のこころと宗教の役割～

『日本のこころと宗教の役割 明治維新から150年——宗教・文化政策を考える』をテーマに第15回奈良県宗教者フォーラム(主催・同実行委員会)



が9月29日、奈良市の薬師寺まほろば会館で行われ、宗教者、市民約200人が参集、京都教会からも渉外部スタッフが参加した。

フォーラムは、薬師寺の加藤朝胤執事長、唐招提寺の久保孝戒執事長、法隆寺の古谷正覚執事長を導師に、仏教式の平和祈願法要から始まった。

実行委員長の久保師が開会あいさつに立ち、テーマに込められた今回のフォーラムの趣旨を説明。荒井正吾同県知事、仲川げん同市長の来賓あいさつに続き、天理大学人間学部の岡田正彦教授と国立歴史民俗博物館(千葉・佐倉市)の久留島浩館長の講演が行われた。『近世の「宗門」から、近代の「宗教」へ』と題して講演に立った岡田氏は、1720年に江戸幕府が禁書令を緩和し、西洋の天文学や医学の知識が日本に流入したことで、「18、19世紀は日本人の常識や生活意識が根底から変化した時代になった」と説明した。

その背景には、科学の新しい知識を身につけた国学者や儒学者が、それまでの日本人の常識に大きな影響を与えていた仏教の考え方を批判し、僧侶との間で宇宙論やブッダ誕生の歴史意識などをめぐって論争が起きたことを紹介。「僧侶は経済的生産性がない」といった意見もなされたことを挙げ、「こうした宗教への批判は日本の歴史の中で初めてであった」と述べた。

この論争は明治後期になると仏教側からの反論がなくなり終息するものの、岡田氏は歴史的事実と宗教的

リアリティーをめぐる認識の違いなど、「この時起きた論争は何一つ解決されておらず、200年経った今も重要な問題を含んでいる」と強調。その例として、仏教の宇宙論には、自然科学の宇宙像にはない、人間の運命と死や、死後の魂の行方といった人間が生きる上で重要な課題とその解答が示されているとした。

また、近代では、宗教は個人の信仰に意味を限定し、宗教団体と社会との分離を唱えられる傾向にあるが、宗教が社会と結びつかない時代は歴史上なかったと指摘。信仰や宗教のあり方を考える上で、「200年前に突きつけられた問題が、今の私たちにも突きつけられている」と訴えた。

一方、久留島氏は『明治維新の歴史的前提——19世紀を通した「日本文化」の再発見』と題して講演。江戸時代後期の社会状況や日本人の様子を、シーボルトや19世紀の明治維新前後に来日した外国人が残した文献を用いながら解説した。

この中で、江戸時代は戦争がなく、日本人は親和的で社会は平穏であったと説明。さらに、都市だけでなく地方や農村まで、庶民が集団的に文化を受容するようになったとし、その要因として、手習い所が増え、藩校を優れた人に開放することにより「教育社会」が成立した史実を挙げた。

識字率が上昇して、書籍の飛躍的増加がもたらされるとともに、民衆の政治批判や自治意識も高まり、「明治維新は、こうした文化を育てた社会の底力によってなされたもの」と話した。

二人の講演後、副実行委員長を務める立正佼成会奈良教会の馬籠孝至教会長が、「講演を通して、人間の根本にあるものを考えさせられ、文化政策という視点で教育の大切さを教えて頂きました。宗教者としての役割を考えていきたい」と閉会のあいさつを述べた。

《記事は佼成デジタルから抜粋》

ライトアップして夜間拝観ができるところもあり、これも楽しみです▼特に、各神社でこの時期行われるのが「御火焚(おひたき)」です。社前に積み上げられた井桁の薪に笹や竹を入れ、その前に新米やお神酒などを供え、神楽を奏します▼与謝野蕪村も「御火焚や霜うつくしき京の町」と詠っています。平安時代には、京の民家でも火を焚いていたようです。自然の恵みを受けて、実りをいただけたことを感謝することも大切です。

時事刻々

記録的な猛暑・酷暑と夏もいつの間にか過ぎていき、「秋の日はつるべ落とし」と言われるように、あつという間に日が暮れていき、季節の移り変わりを強く感じます▼これから、十二月二十二日の冬至までは、昼が短くなって、日増しに夜が長くなってきます。こんな『秋の夜長』をどう過ごしていますか▼一般的には、読書や映画鑑賞、星空を眺めたり、虫の声を耳を寄せたりと、秋ならではの楽しみ方があります。京都の社寺では、

## 今月のことば ～『思いやり』を、いつも心に～ 中央支部学生部 田村和哉

今月は中央支部、学生部(高校一年)の田村和哉が担当させていただきます。よろしくお願い致します。

今月の会長先生のご法話は「『思いやり』を、いつも心に」です。僕は普段、佼成をあまり読んでいないのですが、この本を読んでみて初めに思った事は、「いいことが書いてあるな」という思いです。何故そう思ったかという、二つの言葉が僕の心に留まったからです。

ページは前後しますが、まず一つは、「人をそしめる心をすて豆の皮むく」。心が怒りや貪りなどの感情に支配されそうになったら、まずは目の前のことにうちこむ。それも「正念」をとり戻す一つの方法です。”という所です。

僕は昔から先の事を色々考えて頭の中がゴチャゴチャになり、『自分なんて』というネガティブな思いばかり考えて、悩む癖があります。だからこそ今気をつけている事は、『まず行動を起こす』という事を心掛けています。

それは以前、学校から出されるレポートでゴチャゴチャと頭の中で悩んでいる時に、母から『まずは行動に移してみたらいいんじゃない?』と言われ、言われるがままにやってみたら、こっちの方が気持ちが楽だったからです。

もう一つは、『当に大乘経を誦して 諸々の菩薩の母を念すべし』。すなわち、朝夕の読経を習慣とし、『慈悲、思いやりの心をもって生きよう』と願うことだということです。”という所です。これも最近意識している事で、僕自身が思いやりの心を受けた時、とても気持ちがいいし、嬉しかったからです。

でも、思いやりの心だけを持って行動するという事は、まだまだ難しいです。どうしても一つの事に集中できず、やはり色々な事を考えてしまうからです。でも、そうして意識して生活する事で、自分の成長につながっているのだという事が、会長先生のお言葉を通してよく分かりました。

僕は小学校の終わりから不登校になり、中学の時はほとんど引きこもっていました。引きこもっていると精神的な疲労がとても大きいです。自分でもどうした

らいいのか分からなくなり、両親に当たりちらし、弟にも八つ当たりをして、暴言を吐いたり、時には暴力も振るいました。

自分はダメだ。死のう。死ぬしかない。僕のいつものネガティブな考え癖で、そういう事しか考えられなくなっていました。色々考えて悩んでも、その答えが出ず、同じ事を繰り返していました。たまに学校に行く事ができた時がありましたが、精神的疲れが出て、また家に引きこもりました。

そんな中でも、担任の先生はいつも「来て良かったね」「来てくれてありがとう!」という優しい言葉掛けをしてくれました。

僕は「居場所がない」「学校に行っても疲れるだけで行ってしょうがない」といつも思っていたのですが、その時ばかりは「自分も居ていいんだ」「行ったら喜んでくれる人がいるんだ」と、自分の存在価値を感じ、僕の心を解きほぐして、嬉しい気持ちになりました。

卒業式の日。式には参加出来ず、後から母と学校に行くと、校長室で校長先生から卒業証書をいただきました。そしてその周りには、僕の事を心配してくれている20人もの沢山の先生がいました。

この時初めて、「自分の事を思ってくれる人がこんなに居るんだ」と気づき、とても笑顔で明るい気持ちになりました。

今振り返ってみて感じる事は、思いやりのある色々なご縁のお陰様で、失敗ばかりだけど、でもその積み重ねで、少しずつ成長していたのかなと気づきました。

そして人との関わりや交流をもつ事で、今の自分に気づく事ができるし、引きこもって悩むより交流がある方が、沢山『心の栄養』をいただけるし、嬉しいし、楽しいし、一番大切だと思いました。

だからこそ、これからは、今まで関わってくれた人たちに感謝の心で、今度は逆に、自分が人の事を分かってあげられる、思いやりのある自分になりたいと思います。

少しずつでも、“思いやりの心をもって”、“まず行動を起こす”ことを心掛けていきたいと思います。ありがとうございました。 合掌

## ～ある青年のチョットいい話～

彼は毎朝、三条京阪から、蹴上の立正佼成会京都教会まで、ゴミを拾って歩く。斜めがけしたカバン、赤い手提げ袋がトレードマーク。ゴミはさみで拾ってはゴミ袋に入れ、挟んでは入れ、教会に着く頃にはゴミ袋はポンポコリンに膨れている。

そんな彼の姿が近隣の名物になっている。そして、

素敵な影響を及ぼし始めている。

三条京阪はお客様待ちのタクシーが列をなし、運転手さんのたばこのポイ捨てが多い。それが、最近、なくなったのである。それどころか、運転手さん自らが捨てるようになったのである。彼の姿が人の心を動かしただけではない。今日も彼はゴミを捨てる。

## 核兵器廃絶は必ずできる ～日本パグウォッシュ会議 第4回公開講座～

9月29日（土）に清水寺の大講堂において、日本パグウォッシュ会議が主催して『核の脅威削減に向けて』公開講座が開かれました。この講座は、世界宗教者平和会議日本委員会、明治学院大学 PRIME、長崎大学 RECNA が共催しており、これまでの3回は東京で行われ、第4回は京都での実施となりました。

まず、清水寺執事補・大西英玄師、日本パグウォッシュ会議代表・鈴木達治郎氏、立正佼成会常務理事・中村憲一郎氏からの挨拶があり、核兵器廃絶国際キャンペーン「ICAN」国際運営委員・川崎哲氏から基調講演がありました。



昨年のノーベル平和賞を受賞した「ICAN」で、核兵器廃絶に向けて第一線で活躍された講師の話に聴講者は引き込まれて行きました。

昨年国連で可決された「核兵器禁止条約」は、核兵器を非人道的な兵器として、全面的かつ完全に禁止し、核兵器の廃絶の道筋を定め、さらに核被害者への援助を定めた条約であることを紹介されました。

核抑止力は安全保障に不可欠と考えている人がいるが、核を使うという前提で抑止力が働くのだが、壊滅的・非人道的な核兵器を実際に使用することはありえないし、使わなくても保有しておれば、偶発的発射や事故、テロなどの心配はぬぐえない。つまり**核だらけの世界と、核のない世界とではどちらが安全を保障する**のでしょうか。核兵器は戦争を防ぐどころか、何度も戦争の危機を作ってきたのです。

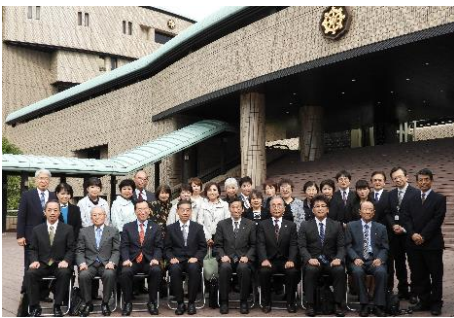
こうして結びに、核兵器廃絶は必ずできる、と講師は力強く語っていました。

基調講演の後、過去3回の講座の紹介と、パネルディスカッションを通して、核兵器の脅威についてさらに深く学ぶことができました。

## 癒しの空気に満たされ、悠（はるか）な仏の声を聞く ～真如苑を訪問～

10月23日（火）、新宗連京都府協議会では加盟教団から25名が参加し、真如苑の悠音精舎（大阪府高槻市）を訪問しました。

一行が到着すると、真如苑のみなさんからのお出迎えを受け、大会議



室に案内されました。挨拶の後、真如苑の概要の説明を受けました。

引き続き、3班に分かれて、悠音精舎を案内していただきました。広い精舎の施設をきめ細やかに説明していただき、質問にも丁寧に答えてもらいました。

真如苑の信者さんは、3つの精舎で大涅槃経の教えを学びます。「接心（せっしん）」という修行を通して、自分を磨き、日常に生かしています。「接心」には指導者からアドバイスを受けますが、その指導者になるには十数年の修行が必要だそ



うです。

御宝前のご本尊のご尊顔はとてもやさしい顔をされていました。真如苑の方々の心からのおもてなしと、ご本尊のお顔にだれもが癒された教団訪問になりました。

## 日常生活の中の仏教用語 ～えっ？こんな言葉も仏教が語源？～

今年から始まる新コーナー。言葉のルーツを知って仏教に親しみを持ちましょう。

### 【内証（ないしょ）】

おもてむきにしないことから。秘密。内緒、内所とも書くが、本来は内証の字を使う。仏教では「ないしょ」と読む。

本来の意味は、自分の心のなかにさとった真理、心

のなかにさとること。「証」はさとりを表す。

心の内側にあるさとりは、他人には見えないもの、内にしまっておくもの、というところから、秘密、内密の意味が強まった。

（「仏教早わかり百科～主婦と生活社～」から抜粋）

## 記事募集のお知らせ

読者のみなさんから記事や写真・絵を募集します。年齢、性別は問いません。教会までお送り下さい。

- ・七五三での思い出
- ・勤労感謝の日にお父さんにしてあげたこと

# ～お会式・一乗まつりに参加して～ 右京支部 中野恵造

10月14日、お会式・一乗まつりが本部周辺で行われました。本部班に密着した感想を述べて頂きました。

開祖さま生誕100年の年に京都教会の万灯が新しくなり、来年は教会発足60周年という節目を迎える時、京都教会の万灯を盛り上げたいと、9月から練習を始めて10月には万灯研修会に西日本教区の井草講師さんをお迎えし、指導を頂きました。

そのご縁で、今回お会式一乗まつりの本部万灯インストラクターの佐々木講師さんを紹介して頂くお手配を頂きました。そんな有難いお手配により、本部万灯に密着して学ばせて頂きました。

一乗まつり当日は、発祥の地での万灯組み立てから、一乗行進の発進、そして、行進追い込み(行進の最終地点)までずっと見学することができました。

本部班の行進は、初めて「生」で観ました。それはもう、鳥肌立ちまくりでした。荘厳さ、統一感、一体感、迫力と、すべてにおいて圧倒的で、さすが本部班!!の一言で、感動というより「衝撃的」でした。

一乗行進本部班では、鳴り物隊の笛、鐘、太鼓、そして纏、万灯、花折りそれぞれにインストラクターが

ついて、技術と大事にすべき精神が後世にも継承される仕組みができていているということも教えて頂いて、見習うべき事だと思いました。

京都教会でも万灯のお花飾りは、先輩幹部さんや婦人部さん中心に紙折りから飾り着けまでを毎年担当して下さっていると伺いました。

本部万灯では、男性も担ぎ手も、お花折りに積極的に参加され、お花を大事にされていると教えて頂きました。

私自身、京都教会万灯では、担ぎ手として携わる中で、真心で飾って頂いた方々のお心にも、関心を持ち、心を向けていけるように、取り組みたいと思います。目に見えないおかげさまを、生かされ頂いているお慈悲、ご恩に報いる私になりたいと思いました。

その後は、私達に応援隊にとっての大目的である“渋谷教会隊列の京都教会の応援”も、めちゃめちゃ熱くなりました。

京都教会のプラカード、纏、鐘、太鼓で出陣された教会長さんはじめ青年さん達は、本当に真剣で楽しそうで、助け合いながら行進され、観ている方が涙を流すほど、感激しました。

まさか応援隊の私が、声援で声を枯らすとは予定外の事でしたが、もっともっと応援したくなるほど、熱く感動を頂きました。事前の準備から練習、当日の行進まで、本当にお疲れさまでした。



こんなおじさんを、一乗まつりに連れて行って来てくれてありがとうございました。

京都教会の沢山の方々にもお見送りして頂いて、嬉しい気持ちでいっぱいでした。

教会壮年部の緒先輩方々、皆さま、今後とも、宜しく願い致します。

ありがとうございました。 合掌

## 11～12月の主な教会行事

11月1日(木)	9:00～	朔日参り
4日(日)	9:00～	開祖さまご命日
10日(土)	9:00～	脇祖さまご命日
11日(日)	10:00～	七五三式典
15日(木)	9:00～	開祖さま生誕会
12月1日(土)	9:00～	朔日参り
4日(火)	9:00～	開祖さまご命日
5日(水)	9:00～	教会発足59周年記念
8日(土)	9:00～	成道会
10日(月)	9:00～	脇祖さまご命日
15日(木)	9:00～	釈迦牟尼仏ご命日
23日(日)	9:00～	教会大掃除

## ●メッセージ

お会式・一乗まつりでは渋谷教会の皆さまはじめ、多くの方々のお世話になり、ありがとうございました。全国から集結したご本部周辺では大変な活気でした。お会式のような行進は、青年部の纏、壮年部の万灯、婦人部・一般の笛、鐘、太鼓はもちろんのこと、御旗のお役や交通警備等、一つの教会で実施しようとするれば、教会が一丸となって取り組める行事の一つです。

その中でも代々引き継がれていく精神や技術など法の継承という観点からも意義深いものがあるように思います。近年では道路事情の影響もあり、地元で一教団だけで実施することが困難な地域もあります。それだけにご本部でのお会式には熱くなりますね。